

実践のまとめ（第3学年 国語科）

聖籠町立亀代小学校 教諭 平石 友紀

1 研究テーマ

自分の考えをもち、かかわりながら学びを深めていく子どもの育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標としている。第3学年及び第4学年「思考力、判断力、表現力等」に関する目標では、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。」とある。互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりする力を高めることの重要性が示されていると言える。

学級児童の実態を振り返ると、自分の考えをもつことはできても、どのように伝えたらよいか迷い、考えを伝えきれていない姿がよく見られる。その結果、双方向の伝え合いにならず、考えを深めたり、合意を形成したりすることに難しさを感じている児童が多かった。

これらのことから、話し合いの活動を通して、自分の考えを相手に伝わるように話し、友達とかかわりながら考えを広げたり、まとめたりすることができる児童を育成したいと考え、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 児童一人一人が話し合いで自分の役割を果たそうとする意欲の醸成

合意形成を目指す話し合いでは、参加者全員が共通の目的のもと、それぞれの役割を果たしながら、協力して話し合いを進めていく必要がある。児童が主体的に話し合い活動に取り組めるように単元デザインを構想し、「❀単元を貫くめあて」と「★ゴールの活動」を児童が意識しながら学習を進めていけるよう、働きかける。

② 『話し合い名人のわざ』の作成

進行に沿って話し合い、合意を形成するためには、適切な話し方や聞き方、司会の仕方を児童が知り、活用できるようにすることが必要である。モデル映像を視聴し、望ましい話し合いの進め方や話型に着目させる。それらを『話し合い名人のわざ』としてまとめることで、その後の話し合い活動で児童が意識して活用できるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 話し合いの仕方における自己の変容を自覚して記述する児童が90%以上。【振り返り】

② 相手の話を受けて反応（感想や質問）することができる児童が増える。【振り返り・教師の見取り】

3 単元と指導計画

(1) 単元名

進行にそって、はんで話し合おう

「おすすめの一さつを決めよう」（小学校国語三年下 光村図書）

(2) 単元の目標

- ・ 比較や分類の仕方を理解し、使うことができる。【知識及び技能（2）イ】
- ・ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。【思考力・判断力・表現力等 A（1）オ】
- ・ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類の仕方を理解し、使っている。 【（2）イ】	・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。【A（1）オ】	・粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全9時間、本時5／9時間）

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てる ★ゴールの活動 『班イチオシの本を紹介しよう～めざせ本好き1年生～』 <small>そのために</small>「考えをまとめる話し合いのわざをみにつけよう」 ・どのような観点で本を選ぶとよいか、全体で考えを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習計画を立てよう。 ✳️単元を貫くめあて 「考えをまとめる話し合いのわざをみにつけよう」  	<p>態度これまでの経験を想起して、学習課題を理解し、学習する意義を感じながら取り組もうとしている。</p> <p>【発言・ノート】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの目的と決めることを確かめる。 ・紹介したい本とその理由について、自分の意見をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の考えを整理しよう。 ・本を選び、付箋に本の題名と理由を書く。 ・本の表紙とおすすめの1ページを撮影する。  	<p>思考・判断・表現集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。【ワークシート（シンキングツール）】</p>
2 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの役割を決める。 ・モデル映像を見て、望ましい話し合いの進め方や話型を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎『話し合い名人のわざ』を見つけよう。  	<p>思考・判断・表現話し合いの目的や進め方を確認し、役割を果たすために大事なことを考えている。【発言・ワークシート】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・『話し合い名人のわざ』を全体で共有する。 ・班ごとに、話し合いの進め方と時間配分、気を付けることを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎『話し合い名人のわざ』をまとめ、話し合いの計画を立てよう。 	<p>態度役割を果たしながら話し合っただけで考えをまとめるために、見通しをもって準備を進めようとしている。</p> <p>【発言・観察】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・本を1冊に決める。 <p>【班での話し合い①】 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎『話し合い名人のわざ』を使って、班で考えをまとめよう。    	<p>知識・技能比較や分類のしかたを理解し、話し合いの中で使っている。【観察】</p>

			思考・判断・表現 自分の役割を果たしながら、互いの意見の共通点や相違点に着目して発言している。【観察、記録映像】
	・話し合い①を振り返り、他の班の良かった点と改善点を話し合う。【班での話し合い②】	◎話し合いをふりかえろう。  振り返って次へつなげる	思考・判断・表現 よりよい話し合いをするための方法を話し合い、まとめている。【発言、ワークシート】
	・本の紹介方法を決める。 【班での話し合い③】	◎進行にそって話し合い、考えをまとめよう。  知識・技能を活用する  協働して課題解決する 	知識・技能 比較や分類のしかたを理解し、使っている。【観察】 思考・判断・表現 前時の振り返りを生かして話し合い、考えをまとめている。【観察、記録映像】
3 (2)	・話し合いの結果や様子を報告し、学習を振り返る。	◎考えをまとめるための『話し合い名人のわざ』をふりかえろう。  振り返って次へつなげる	態度 学習したことを、今後の話し合い活動や日常生活にいかそうという思いをもっている。【発言、ノート】
	・1年生へ本を紹介する準備をする。	★班イチオシの本を紹介しよう。  多様な手段で説明する  振り返って次へつなげる 	態度 話し合って決めたことをもとに、本の紹介の準備に取り組もうとしている。【観察】

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元の重要指導項目は、学習指導要領における「思考力、判断力、表現力等」「A話すこと・聞くこと」(1)オ「目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。」である。本単元では、広げた考えを共通の目的に沿って絞り、決めていく合意形成の話し合いの仕方を学ぶ。司会などの役割をしっかりと立てて話し合うことは初めてになるため、児童がそれぞれの役割を果たしながら、様々な意見を丁寧に整理していくことが必要である。全員で検討して考えを深め、納得のいく方法で合意を形成できるよう、『話し合い名人のわざ』を意識して話し合い活動に取り組みせていく。

一つの結論を出す過程においては、考えを支える理由や事例などを伝え合うことや、共通点や相違点に着目して情報を整理すること、目的や進行に沿って発言することなど、複合的な力が求められる。合意形成のための話し合いを経験する中で、司会などの役割を理解し、参加者全員が協力して話し合うことの大切さに気付かせていきたい。

(2) 児童の実態

これまでの学習では、友達の考えのよさや自分の考えとの共通点、相違点を見付けながら、考えを広げる話し合いを経験した。学級児童の実態を振り返ると、話し合いの中で考えを広げたり深めたりすることができる児童は少数である。全員が自分の考えとその理由を発表し終わると、そこで話し合いが停滞してしまうという様子がよく見られた。児童が話し合うことへの必要感をもち、共通の目的のもと、“全員参加”の話し合いになるよう、働きかけていく必要がある。一部の児童の意見だけで話し合いの結論が出されないことがないよう、合意形成のプロセスを大切にして話し合い活動を進めていく。これまでの話し合い活動では、よい話し合いの姿をイメージできるよう、『納豆→納得』を学級での合言葉にしてきた。納豆のように皆の考えを結びつけながら話し合い、最後には皆が納得して合意形成するというイメージを全体で共有しながら学習を進めていきたい。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

① 単元を貫く課題とゴールの活動を捉え、自分の考えをもつ

単元の導入では、話し合いの必要感や相手意識をもたせることに重点を置き、児童とともに学習計画を立てた。「1年生に本をもっと好きになってほしい」という相手意識や「班イチオシの本を紹介する」という目的意識、そのためには「話し合いで考えをまとめなくてはいけない」という必要感を児童にもたせることで、単元全体を通して、児童がゴールの活動を見据えながら、主体的に学習に向かう姿が見られた。

学習計画を立てた翌日、児童から次のような言葉が聞かれた。

1年生の弟にどんな本が好きか聞いてきた。 図書室に行って本を探してこようかな。

このような言葉からも、児童が本単元の学習を自分事として捉え、思いをもって取り組んでいることが明らかとなった。

② 合意形成をめざす話し合いのスキルを学ぶ

話し合い活動を行うにあたり、児童が望ましい話し合いの進め方や話型を知り、イメージをもつことと、話し合いのスキルを自分たちのものとして活用できるような状態にすることが必要不可欠であると考えた。そのため、まずは教科書のモデル映像を視聴し、児童が着目した話し合いのスキル（図1・2）を全体で共有しながら、「話し合いのわざ」（図3）を作成する学習活動を行った。

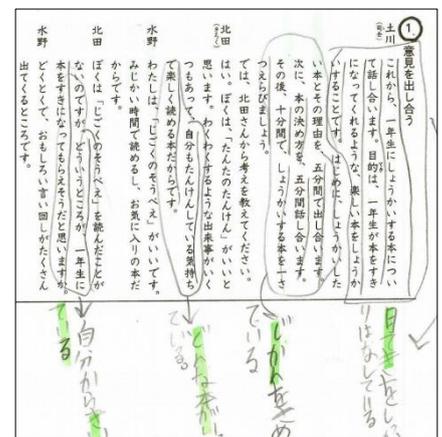


図1

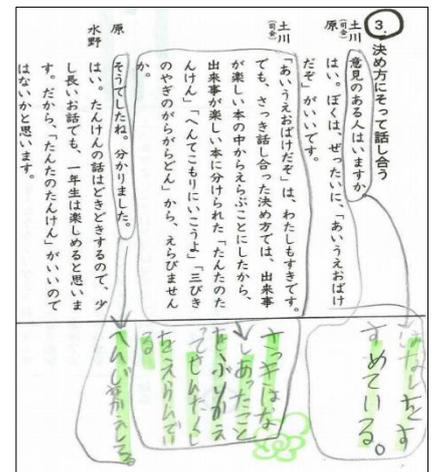


図2

	4 話し合いをまとめる				3 決め方によって話し合う				2 決め方について話し合う		1 意見を申し合う				役わり
話し合いの最後、上手にまとめたものは○を付けます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	司会
	全員	司会	全員	時間	司会	全員	全員	司会	司会	きょう	全員	ロイロ	全員	司会	役わり
	自分にしかない考えを	みんなで決めたことを、さいしゅうかくにんする。	さんせいか、反対か、理由をつけて話す。	この時間をみんなに教える。	くわしくないようを伝える。	すがうとうに注目	話が終わったら、元にもとす。	話が終わらないことは、しつ問する。	分らないことは、しつ問する。	決め方について話し合った本の中からえらぶ。	決め方について話し合った本からえらぶことを、みんなにかくにんする。	決めた方に入った本からえらぶことを、みんなにかくにんする。	決めた方について話し合った本からえらぶことを、みんなにかくにんする。	話し合いの目的、進め方、時間をたしかめる。	話し合いの目的、進め方、時間をたしかめる。
										本を 話ぐみ。	ふせんを動かしながら、出た意見を整理する。	きょう	白ハククラ 話を進める。		わざ

図3

③ 話し合いを行い、考えをまとめる

全員が「司会」「記録」「時間」「ロイロノート」のいずれかの役割を担い、自分の役割を果たそうとしながら話し合ったことが「全員参加」の話し合いにつながった。

初めての話し合いでは、1つの班が、どのような決め方で意見を絞っていけばよいかという点に苦戦し、時間内に結論を出すことができなかった。その班の児童の困り感を、次時の全体の課題とした。話し合いの様子を動画で見返しながら振り返り、新たな視点を既存の「話し合いのわざ」に書き加え、今後の話し合いでも活用していけるようにした。（図3）

(2) 研究テーマに関わる評価

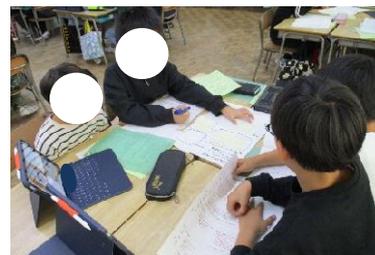
- ① 話し合いの仕方における自己の変容を自覚し、振り返りに記述した児童は91%だった。話し合いのわざ（進め方や話型）を意識しながら、一人一人が役割を担って話し合い活動に取り組んだことにより、充実感や達成感が得られ、変容を自覚できた児童が多くいたと考えられる。

児童A：話し合いで上手くできたわざは、自分の意見をしっかり言えたことです。前はじっとしていたけれど、自分の意見と友達の意見のいいところを言うことができるようになりました。

児童B：前までは、理由を付けて話すことができなかったけれど、賛成か反対か、理由を付けて話すことができました。

児童C：上手くできたわざは、似ているのか違うのかを考えながら聞くことです。出た意見を整理することができるようになりました。

児童D：付箋を動かしながら、出た意見を整理することができました。前は、わざなんて知らずに話し合っていて難しかったけれど、わざを上手に使えるようになりました。



児童E：前は目的を考えずに話し合っていたけれど、1年生に本を紹介するという目的を考えて、自分から話し合いを進めることができました。

- ② 本単元の話合い活動を通して、相手の話を受けて反応することができる児童が増えた。以前は、全員が自分の考えを発表し終わると、話し合いが停滞してしまうことが多かったが、相手に理由を尋ねたり、考えをまとめたりする必要感を児童自身が感じていなかったからだろう。本実践では、話し合いの目的を明確にし、話し合う必要感をもたせることに重点を置いて単元構想を行った。それにより、相手の発言を受けて、自分の意見や疑問を伝えるというやりとりが以前よりも活発にされるようになった。相手の考えを聞いて終わりではなく、「どうして賛成なの?」「〇〇さんは、どっちの考え?」などという言葉が続くようになったことが、成果の1つであると考えられる。

(3) 今後の課題

合意形成をめざし、司会などの役割を立てて話し合うという経験は、児童にとって本単元が初めてだった。そのため、今回は【司会のシナリオ】を用意し、それに沿って話し合いを進行できるようにした。話し合いの流れが可視化されているシナリオは、児童が話し合いを進める上での拠りどころとなっていた。話し合いの進め方や話型を知り、実践してみるという経験は、児童にとって必要な学びだったと考える。一方で、シナリオ（型）があることにより、児童の思考が十分に深まったかという点においては、課題が残った。話し合いの醍醐味は、自分なりの言葉で思いを表出させながら他者と議論を深めていくことである。今後、話し合いの経験を積み重ねていく中で、自分なりの言葉で反応するよさや楽しさを実感させていき、実態に応じて、徐々に児童に委ねる部分を増やしていきたい。

〈参考文献〉

- 文部科学省、「小学校学習指導要領解説 国語編」，東洋館出版社，2018
光村図書，「小学校国語 学習指導書 3下」光村図書出版株式会社，2024
新潟県立教育センター，「主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック」，2019